

自己点検・自己評価報告書(令和4年度)

学校法人瓶井学園 日本コンピュータ専門学校

令和5年4月1日作成

1. 学校の教育目標

- (1) 専門知識・技術を習得させ、業界ニーズに応えられる人材を育成する。
- (2) 自主性・協調性を養い、自学自習で知識・技術の向上を図る。
- (3) 夢を将来の目標に変え、目標に向かうことのできる自立心を養う。
- (4) 人間力（コミュニケーションスキル、公共心、対人関係）の向上を図る。

2. 令和4度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

- (1) 企業等と連携し、業界ニーズに応えられる知識力・技術力を養う実践的かつ専門的な教育を行う。
- (2) 学生だけでなく、卒業生・保護者にも、本校の教育に対する理解を深めていただけるよう情報を発信する。
- (3) 授業評価アンケートを実施し、教育内容等の充実を図る。
- (4) 教員の資質・指導力を向上させるための施策を増やす。
- (5) 教育課程編成委員会での意見を検討し、カリキュラムを検討し実施する。
- (6) 日本語能力試験 N2 級以上、合格を目標にし、日本語教員による講習会を実施する。
- (7) 作品レベル・資格取得の向上のための対策を実施する。
- (8) 退学者をできる限り減少させる。

3. 評価項目の達成及び取組状況

(1). 教育理念・目標

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1	評価委員 確認
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	④ 3 2 1	
学校における職業教育の特色は明確か	④ 3 2 1	
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	④ 3 2 1	
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に 周知されているか	4 ③ 2 1	
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて 方向づけられているか	④ 3 2 1	

【総括・特記事項】

- ・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などについて、教職員は熟知し、折に触れ学生に伝えており、学生は概ね理解している。対外的には、ホームページや学校案内等に掲載しており、周知されている。また、3つのポリシー(アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシー)をホームページや学校案内等に掲載している。
- ・コロナ禍であったが感染対策を徹底して入学式を実施しその後、保護者懇親会のみを実施した。父兄からは、授業内容や卒業後の進路等について意見が出たため就職実績を例に挙げて説明し理解をいただいた。
- ・卒業式・卒業パーティーについては、コロナ対策を徹底し、実施した。
- ・学校の特色・将来構想について、社会の変化や業界の流れに対応し、適宜見直しを行い、学生に業界ニーズを伝えどのような知識・技術の習得が必要かなどを説明している。
- ・コミュニケーション能力の向上、業界ニーズに合ったカリキュラムの導入、ドキュメントの書き方などをカリキュラムに導入し、教育を進めている。より一層の充実を図る。

(2). 学校運営

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1				評価委員 確認
目的等に沿った運営方針が策定されているか	④	3	2	1	
運営方針に沿った事業計画が策定されているか	④	3	2	1	
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、 有効に機能しているか	④	3	2	1	
人事、給与に関する規程等は整備されているか	④	3	2	1	
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	④	3	2	1	
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	④	3	2	1	
教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	④	3	2	1	
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4	③	2	1	

【総括・特記事項】

- ・企業との連携の強化し、企業等の外部意見を取り入れて教育内容の改善、教職員の質向上、情報公開に取り組んだ。
- ・定められた運営方針は、管理者会議、学科会議等を通じて教職員に伝達されている。
- ・学校の目的、目標の達成や社会のニーズへの対応のため、教育課程編成委員会を開催し、企業・業界・団体より広く意見を求め授業内容を改善している。
- ・教育活動等に関する情報公開は、ホームページや学校案内、学生募集要項等で行っているが、ニーズに沿ったものになっているかどうか、教育課程編成委員会等を通じて適宜見直す必要がある。
- ・ホームページにて「自己点検・自己評価報告書」、「学校関係者評価委員会報告書」の情報公開を行い、「学校案内」、「募集要項」等についてはホームページで閲覧できるようにしている。
学校関係者評価委員会に置いては公開項目の検討を重ねている。
- ・学校案内等の資料請求や体験入学の申し込みは、インターネットからの申し込みが増えているため資料請求や体験入学の申し込みがしやすいように Web のフォームを改善していく。
令和5年度は、ホームページをリニューアルする予定。
資料請求 → 体験入学(オープンキャンパス) → 入学までの状況分析を実施する必要がある。
- ・「成績処理」、「証明書発行」、「卒業台帳の作成」、「卒業証書の発行」等の業務のデータ化が整備され効率化が図られているが入学から卒業までの一元管理に向けて、事務側と教務側で意見交換を行っている。事務側と教務側での連携については、強化が図られており処理はスムーズに行われている。
- ・資料請求 → 体験入学 → 入学・・・卒業 → 卒業後のデジタルデータが存在するので一元管理するシステム開発を検討する予定。

(3). 教育活動

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1	評価委員 確認
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	④ 3 2 1	
教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	④ 3 2 1	
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	④ 3 2 1	
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4 ③ 2 1	
関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	④ 3 2 1	
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4 ③ 2 1	
授業評価の実施・評価体制はあるか	④ 3 2 1	
職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4 ③ 2 1	
成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	④ 3 2 1	
資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	④ 3 2 1	
人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	④ 3 2 1	
関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	④ 3 2 1	
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力・育成など資質向上のための取組が行われているか	4 ③ 2 1	
職員の能力開発のための研修等が行われているか	④ 3 2 1	

【総括・特記事項】

- ・専門分野における実践的な職業教育として、企業等による授業・実習・演習を取り入れ、教科内容や教育方法の工夫している。
- ・カリキュラム変更については、教育課程編成委員会の意見を基に検討し、業界ニーズに合うカリキュラムに積極的に変更している。
- ・実際に業界で活躍している専門分野の講師や協定締結企業から専門性の高い講師を派遣していただいて授業を行っており、十分なレベルの教職員を確保できているが、より一層のスキルアップを目指し教職員の外部研修等を奨励している。
- ・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力・育成など資質向上、能力開発のための研修会の参加や勉強会を積極的に取り入れている。
- ・学内に企業からの専門家を招いて、実践的な講義等を実施している。
- ・コミュニケーションスキル、プレゼンテーションスキルについては、引き続き実施している。
- ・学生に授業評価アンケートを年2回実施して評価内容を各先生にフィードバックして改善を図っている。アンケート集計に3日程度かかっていたが、令和3年度 第二回授業評価アンケートは、Web アンケートを実施した。アンケート集計も数分でできるため効率が良くなっている。
- ・また、アンケート以外で学生から出た意見についてもできる限り対応している。
- ・今後は、業界ニーズを調査し、講義内容や実習内容の充実を図る。
- ・オンラインでの企業説明会は、業界ニーズや具体的な仕事のワークフロー、システム開発の仕組み等について講義を行った後に求人情報について説明していただいている。また、1年生も参加させて勉強している内容の必要性や将来就きたい職種等を決めるための参考にさせている。

(4) . 学修成果

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1				評価委員 確認
就職率の向上が図られているか	4	③	2	1	
資格取得率の向上が図られているか	4	3	②	1	
退学率の低減が図られているか	4	③	2	1	
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4	③	2	1	
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	④	3	2	1	

【総括・特記事項】

- ・就職試験、面接指導等、就職に向けての指導を十分に行っている。
本人が希望している職種に就職している学生が増えている。
- ・本校は、基本情報技術者試験の午前試験免除対象校として認定されており、学内で年4回実施される午前免除試験に合格すると2回までの本試験の午前が免除になる制度を利用して資格取得率の向上には、重点的に取り組んでいる。IT系は、資格がなくても就職できるためモチベーションも下がっている。今後は、対策会議を実施して合格率向上を最優先で実施していく。
- ・就職ガイダンス、企業説明会を1年次から実施し、就職意欲の向上を図っている。
情報処理システム科は、ほぼ全員が就職・進学が決まった。デジタルクリエイター科は、就職率は、上がっていない。令和5年度は、対策を強化したい。
教務会議で就職活動を早めに実施させることが決定し、2月から1年の学生を指導している。
3月には、内定者が出ている。
特に情報処理システム科 気象予報士コースの学生においては、合格率が5%前後で難関の気象予報士試験(国試)に合格しないと気象関係の仕事に就けないが、IT系などに誘導し、全員就職が決まった。
- ・進路変更(就職決定など)、経済的理由、学習意欲減退などの理由から退学者があったが、令和4年度よりかなり改善されている。
- ・卒業生の就業先企業等との産学連携の理解・協力を得ており、在校生の就職にもつながっている。
- ・ほぼ毎週、報告会を実施し、学生の修学状況の確認を行って、できる限り早急に指導を行い、退学率低下に努めている。
- ・すべての卒業生の把握はできていないが、在校生については、ほぼ把握している。

(5). 学生支援

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1				評価委員 確認
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	④	3	2	1	
学生相談に関する体制は整備されているか	④	3	2	1	
学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	④	3	2	1	
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	④	3	2	1	
課外活動に対する支援体制は整備されているか	④	3	2	1	
学生への生活環境への支援は行われているか	4	③	2	1	
保護者と適切に連携しているか	4	③	2	1	
卒業生への支援体制はあるか	④	3	2	1	
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	④	3	2	1	
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みが行われているか	④	3	2	1	

【総括・特記事項】

- ・学級担任制により、学生の相談には主に担任が対応し、学科責任者が企業との窓口となっており有効に機能している。
- ・学生が個々に就職活動をするのではなく、学校と相談の上で進路を決定する仕組みになっており進路・就職に関する支援体制は学生にとって充実したものになっている。
自主的に就職活動を行い本人が目指す就職先に決定できるようにも指導している。
- ・成績・出席の状態について学級担任より保護者に連絡しており、特に成績・出席の状態が芳しくない学生の保護者に対しては詳しく状況を説明し、懇談や家庭訪問を行うなど適切に対応している。
- ・生活支援については、学内奨学金、学外奨学金等で学費軽減を行っている。また、面接や面談を行って生活環境など確認しているが全員の状況が把握できてはいない。
優秀な学生の保護者に対しては対応できていない面があるので成績優秀者の保護者を卒業式後のパーティーに招待し懇談する機会を得ている。
- ・夜間部を設置しており、社会人も働きながら資格取得、キャリアアップを目指すことができる体制となっている。
- ・留学生の日本語能力の低下が目立つようになり、授業についていけないなどの問題が増えており教務会議で学内では、母国で会話しない(日本語または、英語のみ)、日本語能力が低い学生については、日本語能力試験N2級以上の合格を目指して講習会を実施している。

(6). 教育環境

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1				評価委員 確認
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	④	3	2	1	
学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4	③	2	1	
防災に対する体制は整備されているか	④	3	2	1	

【総括・特記事項】

- ・最新設備の導入・設備のリニューアルについて適切に対応しており、教育上有効に機能している。
- ・学内外の実習については、積極的に取り組んでいるが、さらなる充実を図る。
- ・非常時における教職員の役割分担を決め、適切な誘導ができる体制をとっている。

(7). 学生の受入れ募集

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
学生募集活動は、適正に行われているか	④	3	2	1
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	④	3	2	1
学納金は妥当なものとなっているか	④	3	2	1

【総括・特記事項】

- ・入学事務局、広報担当、広報委員を中心に、全教職員が適切な学生募集活動を行っている。
- ・学校案内、ホームページ等において、授業内容、取得できる資格の内容等を示しており、適宜見直し、改良しているが、より正確かつタイムリーに志願者・保護者等に伝わるものとなるよう努める必要がある。
- ・令和4年度も引き続きホームページにて「学校案内」、「募集要項」を閲覧できるようにした。
- ・入学選考方法は学生募集要項に明記しており、適切かつ公平な基準に基づき行われている。
- ・入学選考面接は、複数担当者にて実施している。
- ・学納金は、教育内容、社会状況、学生及び保護者の負担感等を考慮して設定され、また本校独自の奨学金制度も利用できるようになっている。
- ・令和元年度から実施された「高等教育の修学支援新制度」の奨学金制度で学費負担軽減が図られている。

(8). 財務

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1				評価委員 確認
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	④	3	2	1	
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	④	3	2	1	
財務について会計監査が適正に行われているか	④	3	2	1	
財務情報公開の体制整備はできているか	④	3	2	1	

【総括・特記事項】

- ・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえる。
- ・学校会計基準により財務諸表が作成され、予算と収支管理が行われている。
- ・財務について、会計監査が適正に行われている。
- ・学園ホームページにて、資金収支計算書、消費収支計算書、貸借対照表を公表している。

(9). 法令等の遵守

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1				評価委員 確認
法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	④	3	2	1	
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	④	3	2	1	
自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	④	3	2	1	
自己評価結果を公開しているか	④	3	2	1	

【総括・特記事項】

- ・法令や設置基準等が遵守され、適正な運営を行っている。また各部門において、会議等を行いより深い理解に努めている。
- ・個人情報保護委員会を設置し、教職員教育を実施している。
- ・自己点検・自己評価を実施し、問題点の改善に取り組んでいる。
- ・ホームページにて「自己点検・自己評価」ならびに「学校関係者評価委員会報告書」を公表している。

(10). 社会貢献・地域貢献

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1				評価委員 確認
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	④	3	2	1	
学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4	3	②	1	
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4	3	②	1	

【総括・特記事項】

- ・中学校や高等学校生徒の職場体験の受入れや無料公開講座等を行い、各教育機関や地域との連携・交流を図っているが、コロナ禍で実施できていないが、要望があれば実施できる準備はある。
- ・ボランティア活動を奨励しているが、参加者が少なく、普及活動の強化が必要である。
- ・大阪府職業訓練の申請を行ったが、受託できなかった。

(11). 国際交流

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1				評価委員 確認
留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか	④	3	2	1	
留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	④	3	2	1	
留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	④	3	2	1	
学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	4	③	2	1	

【総括・特記事項】

- ・留学生の学習・生活指導等については、学級担任が密にコミュニケーションを取り、学習能力・習熟度・生活状況等を把握している。
- ・留学生の状況は、担任が把握し、また、専門の担当者（日本語教員等）を配置している。

4. 日本コンピュータ専門学校（昨年の委員からのご意見から）

教務運営として実施できたこと

（1）コミュニケーション能力（増南委員・檜村委員・北野委員）

コミュニケーション能力の低い学生については、話す機会を増やしたり、年3回の学習成果発表会を実施し、成果は出ている。2年次に進級予定の学生については、人前で話せない学生はほとんどいない。必要以上にコミュニケーションを取らない学生がいるので継続して実施する。

2年次は、卒業研究でグループ学習を実施し、考えさせる、アイデアの創出、話し合いなどの実施でコミュニケーション能力については、一定の効果を上げている。

（2）定期試験方法の在り方についての検討（檜村委員）

令和4年度は、オンライン授業がなかったため例年の日程で定期試験を実施した。しかし、評価方法にばらつきがあったため令和5年度から改善を図ることを教務会議で決定した

（3）教員評価（檜村委員）

年2回の学生による授業評価アンケートを実施し、評価結果を教育課程編成委員会で意見をいただいている。

職員の自己評価にては、年2回（6月、11月）に業務実績報告と業務目標報告を実施しており、上司のコメントを記入し各職員にフィードバックしている。

（4）退学防止に関する取り組み（北野委員）

学生指導（学習指導、生活指導）を今まで以上に丁寧に行い、学業不振が3名、進路変更が4名に減少させた。特に学業不振の退学者が「0」になるまで現在の指導方法を更に検討して進めていく。

教務運営として実施できなかったこと

（1）他専門職の配置（増南委員）

以前は、発達障害等の学生については、堀川先生に相談させていただいたが現在は、相談できていない。今後は、担当教員と社会福祉科・精神保健福祉科の先生と連携し検討を進めていく。

（2）他校との差別化（定員の検討・広報の充実）（檜村委員）

検討を進めたが、思うように進んでいない。

（3）専門的用語の理解（北野委員）

留学生の日本語能力の向上については、日本語教員による講習会の実施、学内では、「日本語」、「英語」以外は使わないように指導しているが、休憩時間やお昼休みまでは、指導が行き届かないためさほど効果は上がっていない。

（4）保護者との連携（北野委員）

成績や出席率がよくない学生や発達障害の学生の保護者には、連絡を取っている。特に発達障害の学生の保護者には、密に連絡を取っているが、まじめに勉学に励んでいる学生の保護者には、連絡を取っていない。

5. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

（令和4年度の評価結果と令和5年度の目標や計画）

（1）教育理念・目標

学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などについて、教職員は熟知し、折に触れ学生に伝えており、学生は概ね理解しているが、保護者がパンフレットやホームページを見て熟知しているかはわからない。保護者懇親会に参加された保護者には、説明している。今後は、保護者と連携を増やすための検討をしていく。

（2）教育活動

日本語教員による日本語の講習会を実施しているが、さほど効果は上がっていないが、更に検討して今後も実施する。

話す機会を増やし、年3回の学習成果発表会を実施、卒業研究でグループ学習を実施し、考えさせる、アイデアの創出、話し合いなどについてコミュニケーション能力の向上をさせるために今後も実施する。

（3）学校運営

「成績処理」、「証明書発行」、「卒業台帳の作成」、「卒業証書の発行」等の業務のデータ化が整備され効率化が図られているが入学から卒業までの一元管理に向けて、事務側と教務側で意見交換を行っている。事務側と教務側での連携については、強化が図られており処理はスムーズに行われている。

令和5年度は、以下のことを検討・実施する。

- ・学校案内等の資料請求や体験入学の申し込みは、インターネットからの申し込みが増えているため資料請求や体験入学の申し込みがしやすいようにフォームを改善していく。
ホームページをリニューアルする予定。
- ・資料請求 → 体験入学（オープンキャンパス） → 入学までのデータをデジタル化し、状況分析を検討し、可能であれば実施する。

- ・資料請求 → 体験入学 → 入学・・・卒業 → 卒業後のデジタルデータが存在おり、一元管理するシステム開発を検討する。
- (4) 学修成果
- ・令和4年度のIT系の学生は、就職・進学指導を徹底して実施した結果、IT系の学生は、就職・進学率が80%になった。
しかし、クリエイティブ系の学生は、作品レベルの問題で就職できない学生がおり、就職・進学率があまりよくなく残念な結果になっている。
 - ・退学防止に関する取り組みについては、学生指導（学習指導、生活指導）を今まで以上に丁寧に行い、学業不振が3名、進路変更が4名に減少させた。特に学業不振の退学者が「0」になるまで現在の指導方法を更に検討して特に学業不振の退学者が「0」になるまで現在の指導方法を更に検討して進めていく。
 - ・資格取得率は、対策を行っているが、IT系の企業は、資格を取得しなくても就職できるため資格取得へのモチベーションが低い。資格取得のための授業を増やしたり、講習会を実施しているが、なかなか効果が上がらない。今後は、更に検討して進めていきたい。
 - ・クリエイティブ系の学生は、作品コンテストに応募することを目標にさせて作品レベルの向上と就職・進学率の向上を目指す。
・学生と卒業生とは、LINE 公式で繋がっているため連絡は、取れるようになっている。
- (5) 学生支援
- ・進路・就職に関する支援体制は、マイナビ、リクナビを積極的に利用するように指導している。
学校に来た求人は、Teams で就職クラス全員に共有している。
 - ・学生相談については、年2回の面接を実施している。また、学生からの相談には、担任、担当者が相談できる体制になっている。また、学生の様子が変わったときは、先生から声掛けをして相談をしている。
- (6) 教育環境
- ・必要なソフトウェアの必要に応じてバージョンアップの実施はしている。
 - ・年2回の全館清掃で清潔感のある学び舎を目指している。
 - ・必要に応じて修理や入れ替えを実施している。
- (7) 学生の受け入れ募集
- ・適切に学生募集は、広報担当、広報委員を中心に、全教職員が適切な学生募集活動を行っている。
 - ・オープンキャンパス等で来校される学生と保護者には、教育成果を伝えている。
 - ・学納金は、教育内容、社会状況、学生及び保護者の負担感等を考慮して設定され、また本校独自の奨学金制度も利用できるようになっている。
 - ・令和元年度から実施された「高等教育の修学支援新制度」の奨学金制度で学費負担軽減が図られている。
- (8) 地域貢献・地域貢献
- ・大阪府職業訓練の申請を行ったが、受託できなかった。
 - ・中学校や高等学校生徒の職場体験の受入れや無料公開講座等については、コロナ禍で実施できていないが、要望があれば実施できる準備はある。
- (9) 国際交流
- ・ラオスからの国費留学生が志望大学の3年次編入し、国費留学生としての継続申請をし、大学でも国費留学生として学ぶことが決定した。
 - ・コロナ禍で実施できなかった新入生歓迎会等の学校行事を実施し、交際交流を進めていきたい。